

研修医しぐさ



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館

電話(073)424-5101代 FAX(073)436-0530

E-mail: ishikai@wakayama.med.or.jp

平成28年2月発行

「公益社団法人和歌山県病院協会と21世紀前半の医療提供体制の構築」

公益社団法人和歌山県病院協会
会長 成川 守彦 先生



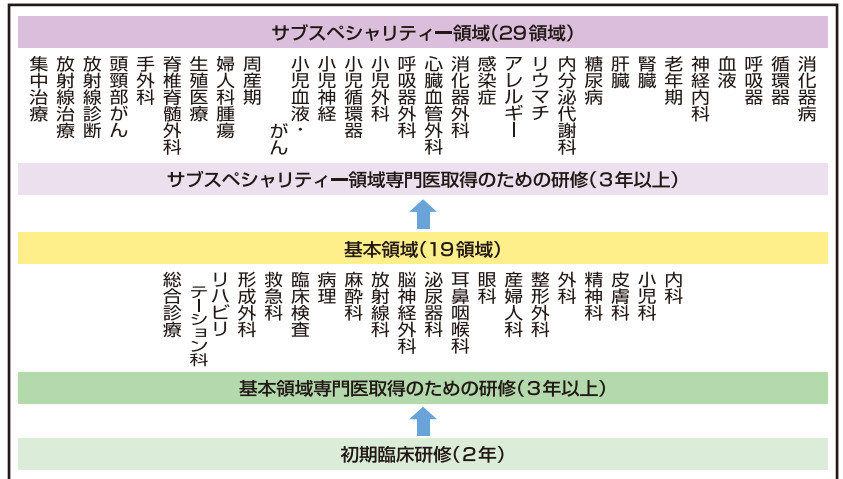
(公社)和歌山県病院協会は、和歌山県下の公的病院・民間病院85病院の内83病院が参加しています。「医事行政との懇談会」「医師会との懇談会」「医大理事会との懇談会」「メディカル・スタッフ団体長との懇談会」「メディアとの懇談会」などを通じて、和歌山県の地域医療の推進と医療の質の向上に尽力しています。

主な事業は、通常総会、学術大会(1,000名の参加)、各種研修会、永年勤続職員表彰、地区別病院協議会などがあります。又和歌山看護専門学校を運営しています。

今、病院にとって一番大きな問題は「地域医療構想」であります。地域医療構想は、超少子高齢・人口減少社会に相応しい医療提供体制を構築するため、医療機関の機能分化と連携、在宅医療を進めるもので、構想区域ごとに2025年における医療需要と必要病床数を、高度急性期・急性期・回復期・慢性期の4つの医療機能区分で体制を整備します。

日本は、21世紀前半の超高齢社会を、財政難と労働力危機という困難な条件にもかかわらず、叡智を結集して乗り越え、新しい社会モデルを提示しなければなりません。将来、研修医の皆様が和歌山県においてその中心になれることと存じます。皆様のご活躍を期待しております。(2015年10月30日)

新専門医制度について (平成27年12月時点)



日本専門医機構における新専門医制度スケジュール

(年度)	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
研修プログラム	プログラム整備基準承認	基幹研修施設研修プログラム作成	専攻医に研修プログラム提示	日本専門医機構：研修プログラムに従って研修			
専攻医		初期臨床研修		日本専門医機構：専攻医を登録			
専門医認定							プログラム修了専攻医が申請
専門医更新	各領域で更新基準の作成	日本専門医機構：新基準での専門医更新審査 上記を満たさない申請者は学会の更新審査で承認され更新時に日本専門医機構の認定を得ることを目指す					新専門医
指導医			新制度指導医または暫定的な指導医				新制度指導医

専門医とは

(基本的な考え方)

- 新たな専門医の仕組みを、国民の視点に立った上で、育成される側のキャリア形成支援の視点も重視して構築。
- 専門医を「それぞれの診療領域における適切な教育を受けて十分な知識・経験を持ち、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師」と定義。(「神の手を持つ医師」や「スーパードクター」を意味するものではない。)
- 新たな専門医の仕組みは、プロフェッショナルオートノミー(専門家による自律性)を基盤として設計。(専門医の在り方に関する検討会 報告書 概要)2013.4.22

専門医制度改革の骨子

- 専門医の医師像を国民にわかりやすく明確にする
患者の視点に立ち、信頼される医師の質を保证する
専門医制度は二段階制(基本領域とサブ領域)とする
- 学会認定専門医から機構認定専門医へ
個別学会単位ではなく、診療領域単位の専門医制度とする
プロフェッショナルオートノミー、学会と協力
- (2015年春の卒業生から)社会から認められる資格を目指し、診療に従事しようとする医師は、19基本診療領域のいずれか1つの専門医資格を取得する
- 共通で標準化され、機構が認定した研修プログラムにより研修施設群の中で所定期間の修練を必須とする
- 試験だけでなく診療実績が重視され認定・更新される
- 総合診療専門医を基本領域に位置づける

妊娠・出産・育児・介護・病氣・ベテラン医師・留学その他特別な事情による更新の猶予、研修の休止等に関しては、学会別対応となっております。すでに公表している学会もありますが、詳細は各学会ホームページを御参照下さい。

「全国がん登録」をご存じですか

国民の最大の死亡原因となっているがん。日本でがんと診断されたすべての人のデータを一つにまとめて集計・分析することによって、がん医療の向上や、がん予防、がん検診を進めることができます。全都道府県をカバーする「全国がん登録」と、病院単位で集計を行う「院内がん登録」が並行して日本のがん情報をまとめます。(がん登録等の推進に関する法律・平成25年12月13日法律第111号)

「がん登録」と「がんの統計」の情報はこちらから

◇がん情報サービス

国立がん研究センターがん対策情報センターのウェブサイト：がん登録や統計などのさまざまな情報を「がん登録・統計」サイトから知ることができます。

<http://ganjoho.jp>

◇病院を探す

「がん診療連携拠点病院などを探す」で、各施設の各種がんの情報より院内がん登録の登録件数を見ることができます。

<http://hospdb.ganjoho.jp/kyoten/>

先輩医師の体験記

忘れられない患者・家族

和歌山市医師会 野村康晴先生



大学での研修医、大阪での勤務医を経て和歌山市内に内科を開業して20年目になります。その間、数多くの患者さん、またその家族との出会いをさせていただきました。

研修医時代担当した強面の患者さん。注射に失敗しても、眉間にしわを寄せてさらに怖い顔になりながら、「ワシは注射慣れしとるから大丈夫や、何回でもええぞ」とドスの利いた声で言ってくれたその患者さんは「先生だいぶお医者らしなっただな」の一言を置き土産に、その後無事退院して行かれました。

勤務医時代にも、特に忘れられない患者さんとご家族がいます。一人は、髄膜脳炎を発症し救急搬送されてきた男子高校生。入院直後から昏睡となりすぐに気管挿管、その後気管切開し人工呼吸器管理となりました。痙攣も頻発しチオペンタールによる麻酔で脳保護に努めましたが、第20病日が過ぎた頃、最悪の想定もお話せざるをえませんでした。しかし、その後もベッドの息子さんの傍で過ごすお母さんの背中には、しゃんと伸びたまま。その背中からは、きっと回復するという何か強い力が感じられ、新米の私を圧倒しました。正直、何回か諦めそうになりましたが、その都度お母さんの存在に力をもらい、先輩や同僚、他科の先生方にも助けられ、治療を続けたところ突然意識が戻り、刺激に反応するようになりました。医師の気力の大切さを教えてもらった患者さんとお母さんでした。患者さんはその後言語に少し障害が残ったものの順調に回復して退院、高校に復学されました。病院を退職した後も毎年お便りで元気な様子を知らせてくれます。

もう一人はやはり20歳代の男性で、進行性大腸癌でした。来院時にはすでに癌性腹膜炎を併い嚴重的な状態でした。まだ若かった私がどう告知すべきか迷っていると、お母さんが気丈にも自ら息子さんに話してくれました。告知後も患者さんは落ち着いており、年齢のそう変わらない私には、不思議に思われました。お母さんに尋ねると、ずっとそばにいてあげるから、と言っただけですとのことでした。残念ながら進行が早く転移も広がり、緩和ケアにて看取りました。安らかな最期だったとはいえ、役に立ったのだろうかと思ひたる思いの私に、お母さんは優しくお礼を言ってくれました。その上、息子の死を今後のお役に立てて欲しいと病理解剖の申し出までしてくれたのでした。

現在は高齢化の進んだ地域で開業していますので、自ずと患者さんは高齢の方が多く、先生は私より若いから、最後まで診てくださいよ、とよく言われます。ホームドクターですので、高度な治療は病院にお願いして、日頃の健康管理から人生相談まで幅広く患者さんやご家族に寄り添う診療を心がけ、納得した人生を全うできるようにお手伝いできればと思っています。

赤ひげのいるまち

■BS-TBS「赤ひげのいるまち」

人々の健康を守り、自然や環境の“輝き”を大事にする医師達。各地域で現代の赤ひげとして地域医療に従事しておられる医師を中心として、その活動を通して、町に住む人々、自然、習慣、その土地ごとの風光明媚な風景などを紹介します。

■「赤ひげのいるまち」

放送スケジュール

BS-TBS 毎週金曜
20:54~21:00

■キャスト

ナレーター：竹下景子
音楽：小林亜星
「まごころの詩」「朝の光の中に」

女性医師の勤務環境の整備に関する講習会より (平成27年1月20日 和歌山県立医科大学病院臨床講堂1で実施)

「若い医師がキャリアを 継続するために必要な支援とは？」

講師

東京医科大学医師・学生・研究者
支援センター センター長

東京医科大学病院 皮膚科学分野
教授 大久保 ゆかり先生



1984年 東京医科大学卒業

2001年~03年 アメリカスタンフォード大学医学部留学。

東京医科大学皮膚科講師を経て、2012年より現職。

私自身は女性医師の支援のない時代に育って来た。時代が変わったこともあるが、自分自身がして来た要らない苦労はして欲しくないという思いと、甘えずやるべきことはやるという両方の思いで日頃教授職とセンター長の仕事をしている。研究に没頭した後に35歳で子供を産んだ。その後も仕事に明けくれる日々であったが、子供が7歳から10歳まで3年間、子供と二人でアメリカ留学を経験した。その時やっと子供と触れ合う時間を持てたことで、本当の親子関係ができたと思う。親の介護も経験中である。

女性医師は自覚をもち、強い意志を持って仕事を継続する。男性医師は多様性を理解し、社会で子供を育てる、支えるという観点をもつことが、結果的に医師の確保につながる。

ダイバーシティを考えた医師支援で重要なことは、これを医師自身、その家族、職場で共有する価値観とすることである。

女性医師メンター制度について

キャリア形成上の課題や悩みの解消を援助する制度が始まりました。詳細は県医師会ホームページまたは関係書類を御覧下さい。

◆日本医師会女性医師バンク◆

バンクにご相談、求人、求職の成立はすべて無料です。
電話番号は03-3942-6512です。お気軽にご相談下さい。

医師会研修医会費無料化について

和歌山市医師会・和歌山県医師会・日本医師会、すべて研修医期間2年間は会費無料です。

【入会手順・お問い合わせ】

和歌山市医師会事務局(073-445-5199)に「和歌山市医師会研修医会員について知りたい」とお伝え下さい。

和歌山市医師会 URL: <http://washii-unet.jp>

● 医療小説の紹介 ●

ノーフォールト

岡井 崇 著

1946年、和歌山県周参見生まれ。
総合母子保健センター愛育病院院長(産科医療補償制度、医療事故調査に関する検討委員会委員を務める。)東京大学医学部卒。

緊急手術、医療事故、裁判、そして過酷な勤務一現役の産婦人科医師が医療の危機の実態を描き出す、ヒューマン・ドラマ! また、同著者のデザイナーベイビー(2011年早川書房)は2015年9月23日からNHK総合にて8話のテレビドラマとして放映された。

(文責：和歌山県医師会 榎本多津子・木下智弘)

